鹿児島女子短期大学紀要
第52号（2017）135～140頁

郷土料理に接する経験が女子短大生の思考や行動に与える影響

―自尊感情とキャリア形成に視点をあてて―

The Effect of Experiencing the Local Cuisine on Thinking and Behavior of Women College Students

―Focusing on the Self-esteem and Career Formation―

松元　理恵子*，千葉　しのぶ*，改元　香*
Rieko Matsumoto，Shinobu Chiba，Kaori Kaimoto

*鹿児島女子短期大学

2011年に中央教育審議会の答申により，現在のキャリア教育の基本的方向が決定づけられた．大学生のなかには，将来の自分のすすむ道や目標を考える際に，自分の適性に合った職業選択への自信のなさから，自尊心や自己効力感の低下につながる傾向がみられている．本研究では，短期大学生の食物栄養学専攻の学生を対象に，2015年に「かごしまの味」に認定された郷土料理を授業で体系的に学ぶ体験が，授業内容にどのような価値を求めるかを検証し，将来の目標にむかう動機づけの強さが，自尊感情やキャリア形成に対する考え方に与える影響を考察することを目的とした．

将来の職業とも関連がある内容として，地域で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等の継承と文化を形成する一番の基盤である家庭の食事や食文化を学ぶことは，新たな自分の発見や学んでいることを誇りに感じ，将来の目標，就職活動に対してもよい影響を与えることができると考えられた．

キーワード：自尊感情　　キャリア教育　　動機づけ　　郷土料理

Ⅰ．背景

2011年に公表された「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方」（中央教育審議会）により，現在のキャリア教育の基本的方向が決定づけられた．キャリアを「人が，生涯の中で様々な役割を果たす過程で，自らの役割の価値や自分と役割の関係を見だしていく連なりや積み重ね」とし，キャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して，キャリア発達を促す教育」と定義している．大学生のキャリア発達について，現代の学生は自分の頭を使って意思決定をし，進路を決める必要性が低くなったと指摘し，「自己吟味の欠落」と述べている（宮下, 2010）．

そして，就職活動に入っていくまでの間に，自己理解や自己と社会のかかわりについていまだ漫然とした状態で就職活動にはいっていくとしている．筆者は短期大学生の抑うつやストレス因子についてこれまで検討してきた（松元2011, 2011;宮里2011, 2013）．本短大でも自分の適性に合った職業選択への自信のなさを感じ，これが強まることで，自尊心や自己効力感の低下につながる傾向がみられた（松元, 2015）．

2000年に国立教育政策研究所が定めた「４領域　８能力」と呼ばれるキャリア教育の基盤が提示されたが，2011年の中央教育審議会答申により「基礎的・汎用的能力」に変更された．「基礎的・汎用的能力」は「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の４つの能力からなっている．高知県教育センターでは，児童生徒の「基礎的・汎用的能力」と基本的生活習慣，自尊感情，教科の学習意欲及び郷土愛等のキャリア形成と学力の関係について分析し，郷土への愛着は，人間関係形成・社会形成能力に正の影響を及ぼし，学力までつながっていることを明らかにしている．

郷土への愛着に関連することの一つに，学校に配置されている栄養教諭は児童生徒に対して食に対する指導を行っており，学校において伝統食材や地域の食材をつかって地元の文化を継承する取組みが行われてきている．食物栄養学専攻の学生は，栄養教諭，栄養士の資格取得をめざしており，さまざまな場面で，食に対する指導のあり方を学んでいる．そして，　郷土料理を体系的に学ぶ取組みが，今後，授業のなかではじまることになった．学校教育でキャリア教育や進路指導を行う際に，(a) 自発的なやる気の質と強さ，(b) 目標の質とそこに向かう意欲の強さ，(c) 生得的な能力，そして (d) これまでに学習したこと，についての評価である（角田, 2014）としていることより，郷土料理を学ぶ取組みをとおして，短大生の思考と行動にどのような影響を与えるかを把握することが必要であると考

えた．

そこで，本研究では，短期大学の食物栄養学専攻の学生を対象に，郷土料理における意識調査の実施に際し，郷土料理を授業で体系的に学ぶ体験が授業内容にどのような価値を求めるかを検証し，目標にむかう動機づけの強さが，自尊感情や将来のキャリア形成に対する考え方にどのような影響を与えるか考察することを目的とした．

Ⅱ．方法

１．対象者へのアンケート実施

本学生活科学科の食物栄養学専攻および生活科学専攻の１年生，２年生（18歳から20歳）を対象に，「女子短大生の郷土料理に関するアンケート」と題したアンケートを実施した．アンケートはその場で一斉に配布し，一斉回収した．その結果，128名（回収率100％）より有効回答を得られた．

２．調査票

（1）鹿児島の郷土料理に対する意識をみる尺度

意識調査については，基本属性ならびに①鹿児島の郷土料理の喫食経験と頻度，②嗜好，③喫食の方法，④調理経験の有無等，郷土料理の理解について問う内容とした．

なお，郷土料理に対する考え方については，以下の質問項目（２件法）とした．

《郷土料理に対する考え方》

1	郷土料理の伝承は大切である
2	郷土料理に興味がある
3	郷土料理を作りたい
4	郷土料理を作り，家族に食べさせたい
5	郷土料理が作れると，就職に有利である
6	郷土料理は作るのが面倒だ
7	郷土料理は時代の変化に伴って消えてしまっても仕方ない

鹿児島の郷土料理の抽出にあたっては，平成27年，鹿児島県農政部農政課により，鹿児島県民自らが「後世に残したいと願う郷土料理」を選ぶ「かごしまの味」の投票により認定された28品とした．

（2）目標意識，自己の感情に関連する反応をみる尺度

藤・湯川（2005）の満たされない自己尺度（５件法）を用いた．

（3）学校場面における授業内容の価値について測定する尺度

伊田（2001）によって開発された課題価値測定尺度（７件法）を用いた．

Ⅲ．結果

１．尺度分析

目標意識，自己の感情に関連する尺度23項目について，主因子法・*Promax* 回転による因子分析を行い，４因子構造が妥当であると考え，十分な因子負荷量を示さなかった４項目を分析から除外し，残りの19項目に対して再度主因子法・*Promax* 回転による因子分析を行った．４因子はそれぞれ「目標喪失感・停滞感」「自己愛傾向」「自分らしさ希求」「高い理想追及」因子と命名した．４因子で19項目の全分散を説明する割合は，55.01％であった．

４つの下位尺度に相当する項目の平均値を算出し，「目標喪失感・停滞感」（平均23.16, *SD* 42.01），「自己愛傾向」（平均7.31, *SD* 2.65），「自分らしさ希求」（平均15.51, *SD* 3.03），「高い理想追及」（平均9.42, *SD* 2.54）とした．内的整合性を確認するため，α係数を算出したところ「目標喪失感・停滞感」でα＝.85，「自己愛傾向」でα＝.73，「自分らしさ希求」でα＝.69，「高い理想追及」でα＝.63と十分な値を得た．

学校場面における授業内容の価値について測定する尺度30項目について，主因子法・*Promax* 回転による因子分析を行い，３因子構造が妥当であると考え，十分な因子負荷量を示さなかった２項目を分析から除外し，残りの28項目に対して再度主因子法・*Promax* 回転による因子分析を行った．３因子はそれぞれ「制度的・実践的利用価値」「私的獲得価値」「公的獲得価値」と命名した．３因子で28項目の全分散を説明する割合は，66.09％であった．

３つの下位尺度に相当する項目の平均値を算出し，「制度的・実践的利用価値」（平均60.98, *SD* 10.40），「私的獲得価値」（平均53.75, *SD* 11.0），「公的獲得価値」（平均31.36, *SD* 5.58）とした．内的整合性を確認するため，α係数を算出したところ「制度的・実践的利用価値」でα＝.95、「私的獲得価値」でα＝.94「公的獲得価値」でα＝.87と十分な値を得た．

表１　目標意識・自己の感情に関連する反応をみる尺度の因子構造結果
（*Promax* 回転後の因子パターン）

	因子			
	目標喪失感・停滞感	自己愛傾向	自分らしさ希求	高い理想追及
何の目標もなく日々暮らしているような気がする	**.84**	-.07	-.02	.12
自分はいったい何がしたいのかよくわからない	**.82**	-.01	-.13	.03
生きていくうえでの目標がうまく見つからない	**.66**	.05	-.11	.03
今の自分は思い描く自分と違う	**.64**	-.04	.17	-.06
何をするにしてもめんどうだと思うことが多い	**.62**	.06	-.07	-.13
「本当はこうしたいのに」と思うことが多い	**.56**	.16	.10	.10
物事に取り組むペースが，鈍ってきていると感じる	**.43**	-.10	.23	-.17
自分なりに一生懸命頑張っているという気がしない	**.42**	-.03	.09	-.16
周囲の人々は，私にもっと高い評価を与えてしかるべきである	.00	**.83**	-.06	-.04
私は，本当は周りの人たちが思うよりずっと有能な人間である	-.18	**.73**	.09	-.03
私に注目が集まらないのを，いつもおかしく思う	.11	**.55**	-.21	-.04
現在，私の才能や能力は不当に評価されていると思う	.18	**.44**	-.07	.01
何かの役に立つようなことがしたい	-.07	-.20	**.64**	.04
自分の性格や特技に合ったバイトや仕事がしたい	.05	-.14	**.60**	-.05
自分をいかせるような場でいつも活動していたい	.00	.18	**.59**	.01
思いっきり自分の力を発揮できる機会が欲しい	.09	.34	**.49**	.15
理想に満たない自分でも，よいと思う	-.01	-.02	.08	**.72**
物事が理想に届かない時には，うまくあきらめをつける	.03	-.11	-.17	**.63**
あまり高い理想を抱かないほうだ	-.05	.02	.11	**.46**
因子間相関	目標喪失感・停滞感	自己愛傾向	自分らしさ希求	高い理想追及理想追及
目標喪失感・停滞感	—	.41	.19	-.40
自己愛傾向		—	.32	-.11
自分らしさ希求			—	-.10
高い理想追及				—

表２　学校場面における授業内容の価値について測定する尺度の因子構造結果
（*Promax* 回転後の因子パターン）

	因子		
	制度的・実践的利用価値	私的獲得価値	公的獲得価値
希望する職業に就くための試験に必要な内容	**.90**	.04	-.11
就職や進学をしようとする際に役に立つ内容	**.87**	.10	-.13
就職や進学の試験突破にとって大切な内容	**.80**	.12	-.01
自分の進路目標を実現するのに必要な内容	**.78**	.11	-.04
将来，仕事の中で直面する課題を解決するのに役立つ内容	**.77**	.09	-.08
自分の希望する職業の中身に関係するような内容	**.75**	.24	-.15
将来，仕事における実践で生かすことができる内容	**.70**	-.13	.17
就職または進学できる可能性が高まる内容	**.69**	-.20	.28
就職または進学する際に要求されると思う内容	**.67**	-.16	.40
将来，社会人として活動する上で大切な内容	**.60**	-.16	.26
職業を通して社会に貢献しようとするときに役立つ内容	**.55**	-.08	.46
自分という人間に対して興味・関心をもつような内容	-.14	**.93**	.06
自分の個性を活かすのに役立つとうな内容	-.01	**.89**	.05
学んでいて満足感が得られる内容	.03	**.87**	.01
学んでいて楽しいと感じられる内容	.18	**.81**	-.03
学んでいて，おもしろいと感じられる内容	.06	**.75**	-.33
興味をもって学ぶことができるような内容	.23	**.68**	.08
学ぶと，自分自身のことがより良く理解できるようになる内容	-.17	**.62**	.28
今まで気づかなかった自分の一面を発見できるような内容	-.25	**.60**	.35
学んでいて好奇心がわいてくるような内容	.41	**.58**	.01
学ぶことによって，より自分らしい自分に近づくことができる内容	.22	**.52**	-.09
学んでいることに誇りが感じられる内容	.02	**.50**	.36
知っていると周囲からできる人として見られるような内容	-.10	.10	**.88**
学んだことが他の人に自慢できるような内容	.08	-.02	**.72**
学ぶと人よりかしこくなると思えるような内容	.10	-.01	**.70**
詳しく知っていると他者から尊敬されるような内容	-.05	.22	**.65**
身につけているとカッコイイと思える内容	.19	-.14	**.63**
学ぶことで人間的に成長すると思えるような内容	-.09	.41	**.47**
因子間相関	制度的・実践的利用価値	私的獲得価値	公的獲得価値
制度的・実践的利用価値	—	.49	.45
私的獲得価値		—	.45
公的獲得価値			—

２．自己の感情への影響への検討

郷土料理に対する考え方が自己の感情（「目標喪失感・停滞感」「自己愛傾向」「自分らしさ希求」「高い理想追及」）に与える影響を検討するために重回帰分析を行った．全体の重回帰分析の結果を表３に示す．

「郷土料理の伝承は大切である」「郷土料理を作り，家族

に食べさせたい」に対しては，「目標喪失感・停滞感」からの標準偏回帰係数が有意であった．また，「郷土料理を作りたい」「郷土料理を作って，家族に食べさせたい」に対しては，「自己愛傾向」からの標準偏回帰係数が有為であった．

結果より，目標をもち，自分なりに一生懸命やれていると感じられている学生は，郷土料理の大切さや，郷土料理を作って家族に食べさせたいと感じており，また，自分はもっと高い評価を得るべきである，注目されたいと感じている学生は，郷土料理を作りたい，郷土料理を作って家族に食べさせたいと感じている傾向にあった．

表３　全体の重回帰分析

	β					
	郷土料理の伝承は大切である	郷土料理に興味がある	郷土料理を作りたい	郷土料理を作り，家族に食べさせたい	郷土料理を作れると，就職に有利である	郷土料理は時代の変化に伴って消えてしまっても仕方ない
目標喪失感・停滞感	−.34***	−.13	−.18	−.24*	−.16	.11
自己愛傾向	−.04	.16	.21*	.27**	.14	.13
自分らしさ希求	.12	−.03	−.02	.04	.14	−.11
高い理想追求	.−16	.03	.05	−.05	.08	−.01
R^2	.10*	.03	.05	.08*	.06	.04

* p<.05　** p<.01　*** p<.001

３．学年別（２年生）の相関関係

１年生は今後，郷土料理を体験的に学ぶことになるが，２年生は，１年時の授業時にすでに郷土料理を学ぶ機会を得ているため，２年生の学校場面における授業内容の価値と自己の感情についての相関係数について，表４に示す．

「目標喪失感・停滞感」については，授業内容の価値の下位尺度間で負の有為な相関を示した．

結果より，授業内容がそれぞれ価値あるものと感じられることは，目標を見出し，思い描く自分を感じられていた．

表４　２年生の相関係数

	制度的・実践的利用価値	興味・私的獲得価値	公的獲得価値	目標喪失感停滞感	自己愛傾向	自分らしさ希求	高い理想追及
制度的・実践的利用価値	—	.80***	.63***	−.43*	−.20	−.21	−.20
興味・私的獲得価値		—	.55**	−.65***	−.04	−.25	−.37
公的獲得価値			—	−.41*	−.10	−.20	−.92
目標喪失感				—	−.13	.35	.62
自己愛傾向					—	.38	−.05
自分らしさ希求						—	.28
高い理想追及							—

* p<.05　** p<.01　*** p<.001

Ⅳ．考察

１．全体の結果より

「生きていくうえでの目標がうまく見つからない」「何をするにしても面倒だと思うことが多い」といった目標喪失感・停滞感は，学習することの楽しさや面白さ，課題での取り組みや成功，またその課題が将来の目標や希望する職業に関連しているといった価値を感じることができると低くなる傾向がみられた．

また，郷土料理の伝承は大切だと感じていること，家族に作ってあげたいと思っていることは，目標喪失感や停滞感が低められる傾向がみられた．そして，郷土料理を作りたい，家族に作ってあげたいと感じていることには，自己愛傾向の影響がみられた．自己愛とは，人の成長欲求であり動機である．郷土料理を作りたい，家族に作りたいという欲求は，自分のことを認めてもらいたい，自分の存在，思いを他者に認めてもらいたいという気持ちがあると推測され，次の成長に結びつく自発的な意欲と考えられる．しかし，自己愛が否定的な感じ方の場合は，自己存在の確認への渇望，自己肯定感の低さによるものとなる．そのため，ネガティブな自己感情，自己存在認識の希薄さを感じている学生に対しては，これまでの学習の意味づけ価値づけと学習してきた技能等をアセスメントし，将来の目標や生活に結びつけることができるために実現可能な方向に導くことが必要であると思われる．

また，２年生の結果からは，学習する授業内容に楽しさや面白さ，課題での取組みや成功体験が，望ましい自己スキーマの獲得につながっていた．また，将来の目標や希望する職業に関連していると感じている学生は，目標喪失感・停滞感が低い傾向がみられた．学習するといった自発的な動機づけにより，自分自身が望ましい自己を獲得でき，それを他者から見ても望ましく，他者と共にあるという自己感と考えることは，自分に対する肯定的な感覚，自尊感情にも影響を与えていると思われる．

郷土への愛着を実感できる一つの取り組みとして，それぞれの土地，地域の伝統や自然・気候・風土と深く結びつき受け継がれてきた料理や作法等の継承と文化，それを形成する一番の基盤である家庭の食事や食文化を学ぶことで，新たな自分の発見と学んでいることに誇りを感じ，自分の個性に役立てるような価値を見出せていると思われる．そして，人や社会とのかかわり，授業内容と希望する職業との関連が実感できることにより，内発的動機が高まり，将来の目標，就職活動に対してもよい影響を与えることができると考えられる．

２．今後の課題

１年生は今後，さらに体系的に郷土料理に対する学びを深めていくが，郷土への愛着を深め，体験的な学びを効果的にいかすといった学習の動機づけとも関係していくと考えられる．また，他の学習による有能感にも影響を与え，生き方やキャリア形成にもつながるのではないかと推測される．

そのため，現１年生が２年生になった時に自己の内的な価値基準を達成しようとする欲求や，自発性と動機づけがどのように変化するのか検証し，自尊感情の高まりとキャリア形成についてさらに検討したい．そして，キャリア支援においてもメンタルヘルスの視点を考えていきたい．

引用文献

角田　豊（2014）学校教育とコフートの自己心理学―生徒指導，キャリア教育，進路指導，教育相談，特別支援教育において児童生徒との関わりと理解を深めるために－　京都教育大学紀要№125，19

高知県教育センター　学校支援部（20115）児童生徒のキャリア形成に関する調査研究Ⅰ～キャリア形成と学力の関係～

中央教育審議会（2011）今後の学校教育におけるキャリア教育・職業教育の在り方について

松元理恵子・宮里新之介（2015）女子短期大学生の学生生活ストレッサ―と精神健康との関連について　鹿児島女子短期大学紀要第50号，118

宮下一博（2010）大学生のキャリア発達　未来に向かって歩む　ナカニシヤ出版，45

参考文献

石橋里美，林潔，内藤哲雄（2015）キャリア教育からみた大学生のキャリア目標設定行動に及ぼす要因分析　東京未来大学研究紀要　第８号　13-25

小泉真理，川北泰伸（2016）清泉女学院大学におけるキャリア教育の実践に関する一考察　清泉女学院大学人間学部研究紀要第13号，59-69

古市成美，高田久美子（2011）食べることの意味と食べ方を問う　鹿児島純心女子短期大学紀要　第41号，39-60

松元理恵子・宮里新之介他（2011）　抑うつ感と身体不調感から見た女子短期大学生の精神的健康の現状と課題　鹿児島女子短期大学紀要46，193-203

宮里新之介・松元理恵子（2012）　女子短期大学生の抑うつ感と学生生活上の多様なストレッサーとの関連　鹿児島女子短期大学紀要47，175-185

（2016年12月２日　受理）